

明石工業高等専門学校図書館

図書館報

第48号 平成25年2月

目次

「レ・ミゼラブル」	・ ・ ・ ・ (1)
図書館と私	・ ・ ・ ・ (3)
私と読書	・ ・ ・ ・ (4)
読書感想文コンクール	・ ・ ・ (6)
推薦図書	・ ・ ・ ・ (12)
利用統計	・ ・ ・ ・ (13)
利用案内	・ ・ ・ ・ (14)

「レ・ミゼラブル (Les Misérables)」 ヴィクトル ユーゴー著

京 兼 純

現在、図書館では先生方から推薦された本を基本として、「読書 100 選」を計画しています。読書 100 選は、明石高専に入学した学生の皆さんが、5 年間あるいは 7 年間で是非、読んで欲しい書物であり、本年度中に 100 冊選んでいただいているところです。人文・科学・技術など多くの書籍の中から選ばれた 100 冊は、特別な書架に置いて、皆さんが気軽に読めるように配慮する予定となっています。

今回の図書館報で私が推薦する本は、フランスの作家ヴィクトル・ユーゴー (Victor Hugo) が 1862 年に著した、長編小説「レ・ミゼラブル」です。たとえば岩波文庫 (豊島与志雄訳) の改訂版では全 4 巻となる大作で、多分、読書 100 選のなかに入っているかもしれません。本書を選んだ理由は、正月に公開されているミュージカルをベースにした映画が成功し、好評を得ているからです。

本書は萬朝報 (よろずちょうほう) の黒岩涙香が完訳し、「噫無情 (ああ無情)」の題名で明治 35 年 (1902 年) から明治 36 年までの約 1 年間連載され、日本で広く読まれるようになりました。当時の萬朝報は大衆受けを狙った政界や財界の醜聞など扇情的な社会記事を取りあげつつ、一方では簡単、明瞭、痛快を社是にして私たちには馴染みのある「巖窟王」、「鉄仮面」、「幽霊塔」などを涙香が翻訳して掲載しています。その後、発行部数が東京の新聞社のなかで第一位になる時もありましたが、紆余曲折があり昭和 15 年 (1940 年) には吸収合併で廃業となっています。

ユーゴーが「レ・ミゼラブル」を執筆した年は、日本は江戸末期 (文久 2 年) にあたり生麦事件や池田屋騒動などが起こるなど風雲急を上げる時でもあり、またアメリカでは南北戦争が激しくなり、この年にリンカーンが奴隷解放を宣言しています。

フランス語の Misérables は、悲惨とか哀れなという意味を持っていますので、「悲惨な人々」と翻訳すればと思うのですが、ここが意識のもつ面白いところで「ああ無情」が本作品にはうまく嵌 (はまり) ます。

作品はこれまでミュージカル、映画、TVドラマ、アニメで数多く取り上げられていますので、簡単に触れるのみにします。

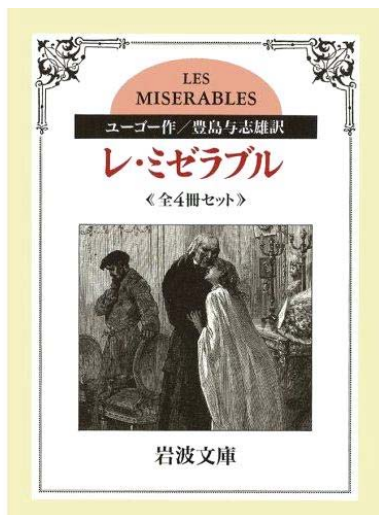
主人公はジャン・ヴァルジャン。貧困に耐え切れず姉の子供のため1本のパンを盗んだ咎(とが)で投獄され、4回の脱獄を図り19年間ものあいだ牢獄に繋がれることとなる。服役後、盗みの目的で入った教会でミリエル司教と出会い、手渡された「銀の燭台」をきっかけに、長い投獄生活で抱いていた社会に対する憎悪と人間不信が打ち砕かれ、真っ当に生きようと改心する。正直に生きようと偽名を使い、新たな土地に移り努力して名声を得るが、そこへ純粹無垢な「法の番人」であるジャベール捜査官が赴任し、第2幕が始まることとなる。ここから最終章までは、過去の罪でジャベール捜査官がジャン・ヴァルジャンを疑いはじめ、また少女コゼットを引き取るまでの話と続いていき、コゼットとの波乱万丈な生活を通した一生を描いている。



小説は1818年から1833年の18年間の時代の流れのなかで、ジャン・ヴァルジャンの生涯を描いているため、随所にフランス革命を始めナポレオンの百日天下など当時の社会情勢や人々の生活が詳しく述べられている。特に映像ではパリ中心部にある前近代的な居住区の不衛生と劣悪な環境、それから生じる貧困・病気や犯罪の温床などが見事に映し出されていました。少し横道に入りますが、ヴィクトル・ユーゴーが本書を執筆したナポレオン三世の時代には、こうした劣悪な環境を改善し貧困の根絶と治安を維持するため、彼自身の意志によって世界でも稀な例としてパリ大改造(都市計画)が行われ、現在の整備された美しいパリの街並みに生まれ変わり、花の都と呼ばれるようになりました。

大手出版社の新聞広告のなかに「弱ったり迷ったりしている時こそ、本は、静かに応えてくれるのではないのでしょうか。」という文字がありました。学生の皆さんは専門教科の参考書を探しに、あるいはレポート書きのために図書館へ通っていることと思いますが、これ以外にも不朽の名作といわれている本書をはじめ、読書100選をステップとして多くの本と出会い、感性をみがき、夢の実現に向けて歩を進めていただきたいと思います。

(きょうかね じゅん 校長)



『レ・ミゼラブル』ヴィクトル ユーゴー著
岩波書店, 2003.9 ISBN: 978-4002010168
1巻 請求記号: 953.0.V-1 登録番号: 103420
2巻 請求記号: 953.0.V-2 登録番号: 103421
3巻 請求記号: 953.0.V-3 登録番号: 103422
4巻 請求記号: 953.0.V-4 登録番号: 103423

図書館と私

大橋 健一

図書館との出会いは中学時代であったと思う。図書館といっても、大きな教室を改造したような粗末な図書館であった。ノンフィクションシリーズを読み漁った記憶があるが、文学作品などとは縁遠かった。図書館との関係が深まって行ったのは高専に赴任してからである。

昭和 49 年に明石高専に赴任し、土木工学科（現在は都市システム工学科に改組）で計画分野を担当して現在に至っている。専門分野が土地利用交通計画であり、土地利用交通モデルの研究のみならず、都市計画の法制度や土地政策に関連した内外の文献を広く収集した。研究環境では、コンピュータ利用の不便は感じなかったが、規模の小さい高専は、大学と比較して図書館が貧弱であった。工学系の学校では、社会科学系の図書や統計書などは全くない状態であり、また、そのような書物を所蔵することも期待できなかった。このような研究環境の下では、学外から研究資料を収集しなければならない。幸いに、本校の近くには公立や大学の優れた図書館が沢山あり、これらの図書館を利用することにより、研究環境を維持することが出来た。

神戸市立中央図書館は、社会科学系の蔵書も多く、また、統計書も揃っており、県内では最も整備された図書館である。個人としての立場からの利用であるが、一番多く利用した図書館である。**兵庫県立図書館**は、学校に近くて駐車場が整備されているため、他の図書館で目星をつけた図書を、「明石高専図書館と県立図書館の相互貸し出し」という制度を使って長期間借りることができた。統計情報を時系列的に収集することが多く、書庫から山のような統計資料を何度もお借りした。図書館間の相互貸し出しという制度は、県立図書館の情報拠点としての機能を高めるために一般貸し出しを制限したものであるが、現在は一般にも開放されている。**神戸大学附属図書館**は、内外を問わず文献・書籍の最も豊富な図書館であるが、学系毎に分かれており、更に、教員の研究室所蔵のものが多く、一般には利用しづらい。ただし、本校と神戸大には職員の人事交流があり、図書係長を通して社会科学系や自然科学系の図書館を利用できたのは幸運であった。経済や法律系の学部を持つ**神戸学院大学附属図書館**は、明石以西では社会科学系の資料が最も豊富な図書館である。近いが故によく利用させて頂いた。**京都府立総合資料館**は、近畿地区の農業政策の拠点が京都にあるために、農業関連の資料が最も整備されている。市街化分析の研究で農地面積のデータを入手するために、何度か京都に足を運んだ。この資料館は、図書館に文書館や博物館の機能を加えた京都ならではの総合的な文化施設であり、京都見物で時間の余裕があればお奨めする施設である。

研究遂行のためにも文献や資料の収集は必須の条件であり、図書館の存在には大きな意義がある。研究費の多くを図書購入や資料収集に当てており、本校図書館の開架コーナーには置いていないが、研究室にはかなりの資料を揃えている。また、「都市計画」などの雑誌は創刊号からのバックナンバーを揃えており、大学でも揃えることが出来ない貴重な資料と自負している。

図書館の利用は、膨大な情報から必要とするものを選び出して収集する作業であり、悪戦苦闘の連続であった。専門分野以外で興味を惹く書物が沢山あったが、目を通す余裕はなかった。今にして思えば大変残念なことである。図書館の利用制度は時代と共に大きく変わってきているが、近年の情報化に伴うインターネット検索の便利さには目を見張るものがあり、資料収集の呪縛から解放された感がある。

(おおはし けんいち 都市システム工学科)



私と読書

梶村 好宏

『最高齢プロフェッショナルの条件 ~これができれば、好きな仕事で一生食べていける!~』

徳間書店取材班著

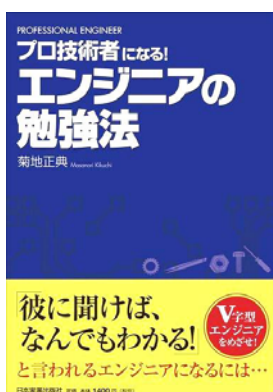
徳間書店, 2012.9 ISBN : 978-4198634759

請求記号 : 366.29.T 登録番号 : 103418

「好きなことで一生食べていく」こんな理想的な生き方をするにはどうすれば良いのか？そのコツがこの本には詰まっている。この本には、さまざまな分野のプロフェッショナルとなった 15 名の成功への道のりが記されている。読書とは、疑似体験である。この本を開けば、15 の異なった人生が体験でき、プロフェッショナルに至るまでのプロセスと人生の分かれ道に差し掛かった時の選択のコツがわかるであろう。多くの本に触れるほど、多くの疑似体験を経て深みのある人間へと成長できる。そう思って日々本に触れている。私自身はエンジニアとして、社会の発展を技術革新で実現する目的をもって仕事をしている訳であるが、これをライフワーク（趣味）としても実践できるよう日々努力している。皆さんが、いざ好きな仕事を見つけ、それを選択する場面に直面した時、成功へと導くために必要なことは何か？それは、日々の講義、実験、そして自らそれらを身に着けるべく勉学に励み、来るべく選択の時に備えることである。日々の勉学、部活、生活において無駄なことは何一つない。何事にも全力で取り組むことである。それが成功をもたらすのである。

(かじむら よしひろ 電気情報工学科)

BOOK * BOOK * * BOOK *



私と読書

松塚 直樹

『プロ技術者になる！エンジニアの勉強法』
菊池正典著

日本実業出版社, 2008.10

ISBN : 978-4534044549

請求記号 : 507.0.K 登録番号 : 103419

今、技術者や研究者に求められていることは、どのようなことか？私が高等教育に携わるようになって、このことについてより考えるようになり、そのときに購入した本である。本書は、30年以上大手メーカーのエンジニアとして半導体製造に従事し、数多くのエンジニアを見てきた筆者

・・・私と読書・・・

が、その経験をもとにエンジニアの在り方についてまとめた本である。企業のエンジニアとして成長するための思考法、勉強法、心得など、数多くのヒントが本書に詰まっており、教育機関にいる私にとって参考になった一冊である。技術においては松尾芭蕉の「不易流行」の考え方が成り立ち、技術の基本・本質的な部分である「不易」と先端技術である「流行」が一体となって技術体系が構成されているが、「不易」の部分をしっかり身につけることがエンジニアにとって最も必要な要素であることが本書で説かれています。学生の皆さんが今できることはたくさんありますので、是非実践していただきたいと思っています。

(まつづか なおき 機械工学科)

*BOOK * * BOOK * * BOOK *

購入希望図書案内

図書館に備えてほしい資料があれば、MyLibrary 経由でお申し込みください。資料の種類は、図書、視聴覚資料などジャンルは問いません。可能な限りご要望にお応えしています。MyLibrary へは、図書館ホームページよりアクセス出来ます。学生証の ID とパスワードが必要になります。パスワードの初期登録は図書館カウンターまで。

図書館ホームページ (<http://www.akashi.ac.jp/lib/index.html>) の下記○部分

明石工業高等専門学校図書館
Library of Akashi National College of Technology

お知らせ

- ◆学科推薦図書を推薦図書コーナーに配架開始しました(2012.11.1)
- ◆平成24年度 読書感想文コンクールのお知らせ(2012.7.13)
- ◆JapanKnowledge+が利用可能となりました(2012.4.24)
- ◆理科年表プレミアムが利用可能となりました(2012.4.24)
- ◆図書館システムが新しくなりました(2012.2.23)
- ◆図書館報第47号(平成24年2月)を掲載しました(2012.2.23)

過去のお知らせ

利用案内

- ・利用案内 [ルースロー版](#)
- ・資料の利用方法
- ・一般利用者の方へ

図書案内

- ・情報検索コーナー
- ・図書情報

資料検索

- ・学内資料検索(OPAC)
- ・学外の図書館資料検索
- ・JapanKnowledge+ [バナー](#)
- 百科事典、国語辞典、現代用語辞典、英和・和英などを検索
- ・理科年表プレミアム [バナー](#)

MyLibrary enter

利用方法はこちら

※個人専用のシステムです。

- ・貸出・予約情報の確認
- ・学生希望図書の申込み
- ・文献複写、図書貸借など他機関への申込み
- ・図書購入依頼申込み(教員専用)
- ※図書館認証 ID/PW が必要です。

(平成23年度は購入希望により、99件の図書等を購入しました。)

平成24年度『読書感想文コンクール』入賞作品

『ツナグ』を読んで

最優秀賞 都市システム工学科3年 細野 時由

先日、大叔母が亡くなり通夜に参列する機会がありました。その通夜で喪主である従兄弟おじが私に「わざわざ遠いところ、来てくれてありがとう」と声をかけてくれました。ただ、その瞳は涙で潤んでいました。身近な人が亡くなるというのは、初めての経験で思わず、人が亡くなるということについて考えてしまいました。そんな通夜の会場からの帰り道で、ふと、この小説『ツナグ』を思い出しました。



『ツナグ』は、たった一度だけ死んだ人と会わせてくれる案内人、使者（ツナグ）の四つの依頼の話、四篇とツナグ自身の話の計五篇で構成されています。ツナグの噂は都市伝説のようにまことしやかに伝わっていて、辿り着けるかどうかは、その存在を知っているか。知って信じるかどうか。そこからの運と言われています。ただ、ツナグを介して生者と死者が会うのには、いくつかのルールが存在します。一つ、生者が死者に会えるのは生涯に一人、一度だけ。一つ、死者も生者に会えるのは一度だけ。一つ、死者側からの依頼はできない、という三つのルールです。

この小説の中で、私が特に気に入った登場人物は水城サマリというキャラクターです。水城サマリの台詞には印象的な言葉がたくさんあります。中でも、特に心に刺さったのは、

「人にしたことは覚えてないけど、してもらったことは覚えてるよ」

という台詞でした。この言葉を読んだとき、「自分は人のためにこんなことをやってあげている。もっと感謝してほしい」、と思っていたことがあったことを思い出し恥ずかしくなりました。私自身が、してもらったことを忘れ、感謝の気持ちを忘れていたことの方が多いのではないかと思いました。自分が人にしてもらったことを忘れるようなことだけは無いようにしたいと思いました。

この小説を読んで、私が特に感じたのは、言葉をしっかり交わすことの大切さです。

一つ目の『アイドルの心得』では、会社員 平瀬愛美が会社の同僚、両親、兄にさえ言いたいことを何も伝えず、一人の世界にこもってしまい、自分がいなくなっても誰も悲しまない、と思ってしまうしていました。自殺する前に、亡くなってしまったタレント 水城サマリと、ツナグを介して出会うことで、自分の言葉がサマリに届いていたことを知り、自殺を思いとどまりました。人に向き合い、言葉を交わすことで愛美の人生は変わり明るく生きるようになっていきます。

二つ目の『長男の心得』では、畠田靖彦が子供の頃からの憎まれ口のために、親戚にも家族にも誤解されがちでした。ツナグを介して母親 畠田ツルに再会することで、ずっと思っていたことを初めて話してしまうことで、抱えていた悩みがなくなり、自分自身の人生を肯定できるようになります。

三つ目の『親友の心得』では、女子高生 嵐美砂が喧嘩別れしたまま亡くなってしまった親友 御菌奈津に会いに行きます。しかし、御菌に謝罪の気持ちを伝えることができませんでした。別れた後に御菌が自分の悪意に気づいていたことを知り、何故素直に謝ることが出来なかったのかと後悔することになります。

どの話でも言葉をしっかり交わすことの大切さが描かれており、普段何気なく交わしている会話の大切さを改めて感じることができました。

この小説を読んだ後、私だったら誰に会いたいのだろう、私が死んだ後に誰かが会いに来てくれるだろうか、などと思わず思いをばせてしまいました。しかし、実際にはツナグには辿り着けないので日々、後悔しないように人と向き合い、自分の言いたいことをしっかり誤解されないように伝えていきたい、生きている人と生きている人をツナグ毎日の会話を大切にしたいと強く思いました。

(「ツナグ」/辻村深月著) 新潮社刊 2010年)

『悩みの雨の止ませ方』

優秀賞 電気情報工学科3年 川上 大貴

『今から一年も経てば私の現在の悩みなど、おそらくくだらないものに見えるだろう』

これは、イギリスの詩人、サミュエル・ジョンソンが残した言葉だ。人は古来、困難に出くわすと、その解決方法について考え、悩み、そして生きてきた。そうして農業技術の発達、政治制度の確立、機械工学の誕生など様々な面で人間は豊かな生活を築きあげてきた。すべてはどこかの誰かが悩み、考え抜いた末に得られた産物だ。今現在も、誰かの努力によって科学技術の発達は続いていると言っているだろう。

しかし、人は誰しもが問題の解決方法に辿り着く、というわけではない。時には苦悩し、時には挫折し、諦めてしまうこともあるだろう。だが、そんなとき、誰かの助けや言葉があったらどうだろうか。人間には一人の考えだけでは達成出来ないような問題はたくさんある。しかし、一人では無理でも、他の誰かの意見やアドバイスを取り入れることによって、解決できる問題は必ずある。仕事や勉強に限った話ではなく、恋愛や友達関係、人生の進路などについても同様だ。だからと言って、悩みの全てが他の誰かに話せるものという訳ではないだろう。恋愛や友達関係ならば、余計にそうなのではないだろうか。一人では苦しい、でも誰にも話せない…。そんなとき、誰にも悩みを話すことなく、誰かから助言をもらえれば…。

『もうダメだ!と思ったら読む本』には、古来の偉人や詩人、武士などが残した『言葉』がたくさん詰まっている。冒頭に示した言葉もそのうちの一つだ。人生の進路に迷った時、恋愛や友達関係に悩んだとき、病気やお金で悩んだ時などに読むと、解決策やどのような心持ちで生きていけばよいかが見えてくる。実際、私も成績や自分の生き方、考え方について悩み後ろ向きな気持ちになっていた時に、この本と出会い様々な言葉をもらうことで、物事の考え方、自分の生き方について前向きに考えられるようになった。元々、一度の失敗を引きずるような性格であったが、一度失敗したことを悔やみ続けていても仕方がない、次のために何が出来るのかを考えることが大切だ、と思えるようになったし、『頑張る』という言葉の意味を今までよりも理解できたような気もした。特に私の心を打ったのは、『勤勉だけが取り柄なら蟻と変わるところがない。なんのためにせっせと働くかが問題だ。』というアメリカの作家、ヘンリー・デビッド・ソローの言葉だ。ただ当たり前なことだからと、学校に行き、勉強し、日々を過ごしてきた私にとってこの言葉は今までの人生を考えさせられるものとなった。なにか最終的な目標や夢、就きたい職業などをそれまでほとんど考えたことがなかった。何も生き急ぐ必要まではないと思うが、やはり、何をするにも、目標や目的を持つことは大切だと思うし、自分が今なんのために勉強しているのかを少しでも考えることがこれからの私の人生にとっても大事なことであるようにも感じられた。この本と出会えたことは今後の私の人生に良い意味で影響を及ぼしてくれると思う。

今現在、日本では『いじめ』問題がメディアで大きく取り上げられ、話題となっている。『いじめ』によって被害者は不登校になったり、最悪の場合、自殺してしまう者も存在する。もちろん、被害者となっている人たちにこの本を読んでみてほしい、とは思っている。誰かに打ち明けられず悩んでいるのであれば、尚更だ。しかし、それ以上に加害者となっている人たち、あるいは傍観者となっている人たちにこの本を読んでみてほしいと思う。自らの行動、態度の愚かさ、悩んでいる人々の気持ちを知り、きつといじめのない世界へとつなげてくれると思うから。

(「[もうダメだ!]と思ったら読む本/櫻井利明著」 株式会社アントレックス 2011年)



『終末のフールを読んで』

優良賞 機械工学科3年 林 智宏

人生、いかに生きるか。誰もが一度は考えたことがあるでしょう。進路をどうするかとか、自分がどんな人間になりたいとか、僕も一度は考えたことがあります。でも、この考え方はこの先何年も生きることが前提で成り立っていて、もし世界が明日終わるとしたら、こういった「自分探し」とはまた違った考え方になると思います。



この本は、「8年後に小惑星が衝突し、地球は滅亡する。」そう予告されてから5年が過ぎたころ、という設定の中で、8個の話が書かれています。世界が滅亡する、と発表された当時はパニックになっていた人たちも、物語の舞台では落ち着いてきていて小康状態を保っています。

僕が一番気に入ったのが5話目の「鋼鉄のウール」です。主人公の通うボクシングクラブには、国内でも有名な苗場さんという人がいます。苗場さんは、「明日世界が終わるならどうするか?」という問いに対して、「変わりませんよ。」と答えていました。僕自身が理想だと思う生き方は、無理をしない生き方です。自分を飾らずに自分らしく。苗場さんはまさにそのような生き方でした。黙々と、不器用に、でもやれることをやる。「変わらない。」と答えたことは、そういうことだと僕は思いました。3年後に世界が終わると聞いて、自暴自棄になり、引きこもったり自殺したりする人もいる中で、こんなことがいえるのはすごいと思いました。僕自身中学のときは、部活中心の生活でいつもやりたいことがあり、充実していましたが、高専に入ってからはあまり何にも打ち込めていないので、何か1つ頑張れることを見つけたいと思いました。明日世界が終わるとしても、生き方を変えない、と自信を持って言えるような生き方をしたいと思いました。

2話目の話「太陽のシール」には、若い夫婦の話でした。あと3年で世界が滅亡する、という状況の中、子どもができてしまいます。優柔不断の主人公は、生むかどうか悩みます。僕の甥っ子も3歳ですが、この歳までしか生きられないとなると悩むのもわかります。人生の大半を生きていけないと分かっている、生まない、というのが普通でしょう。でも主人公は生むことを決めます。物語の中では、何が決め手かは分からない、と言っていたのですが、僕は主人公の友達の夫婦の話が決め手だと思います。その友達の夫婦には、先天性で進行性の病気を持つ子供がいます。毎日楽しく暮らしているけど、1つ不安で不安で仕方がないことがあるといいます。それは、自分たちが死ぬことです。自分たちが死んで、子供を1人で取り残すことを考えると、愕然とする。でも小惑星が衝突することが分かって、みんな一緒に死ぬ。そう考えると幸せだ、という話を主人公としていました。「どれだけハンデを負っていても、楽しく生きれるんだ。3歳までしか生きられないなんて気にしなくていいんだ。」そう思って生むことを決めたんだと思いました。

世界が終わるという状況の中でも、主人公たちは決して暗くなることなく、それぞれの幸せを見つけて生活しています。この本から僕は、今日を生きることの大切さを学びました。僕は、多分みんなも、どこかでまだ死ぬはずないと思っていると思います。でも実際は、いつ死ぬかは誰にもわかりません。交通事故にあうかもしれない、病気になるかも知れない。何よりも過ぎた時間は戻ってこない。いつか、じゃなく、今を生きることの大切さをこの本から学んだ気がします。

(「終末のフール」/伊坂幸太郎著 集英社 2006年)

「飛ぶ教室」を読んで

特別賞 建築学科2年 白神 萌江

ずっと大人になることについて考えていた。これを読んでいる途中に、自分がもう、子どもではないことに気付いてしまったからだ。

ケストナーはまえがきでこう繰り返す。「子どものころの気持ちを、決して忘れないでいて」。

彼が言うのは、子どもだって悩んだり、苦しんだりするのだ、ということだ。そんなことはわかっているつもりだったのに、どこか自信がなかった。私は妹や、もっと年下の子どもたちと関わる時、本当に彼らの気持ちをわかっているだろうか？ 気楽でいいなあ、なんて眺めていないだろうか？ わかってないなあ、と彼らを説得することは？ 全部、ちらりと覚えがある。



この話は男の子たちが主人公で、くだらない、だけど真剣な出来事を次々に起こす。懐かしいとも言えるし、それ以上に眩しく思った。彼らには、迷いがないのだ。友達を救うために規則を破って街に飛び出し、正々堂々喧嘩して帰ってくる。そこに「かしこさ」「勇気」それから「正義」がきちんとあった。勇気とは自分を信じることだ。彼らは自分たちのことを、信じているのだ。

勇気や正義。それはもう私の生活に、縁のない言葉のように思えた。彼らのように喧嘩することもない、挑戦なんてしなくても「いくじなし」なんて言われない。だけど「正義」とはなんだろう。

信じること、それが勇気なら、正義は自分の「信じるもの」だ。表裏一体のその二つを、私はいつまで持っていたらろう。いつのまにか臆病になって、昔信じた自分がどこにあるのか忘れてしまった。私の「正義」とは一体何だっただろう。

いつか、正しいことを正しいと言ったのに、説得されたことがあった。その中で行われたその場の「正義」が、許せなかったことがあった。

大きくなって、少し器用になると、自分を隠して、周りに合わせて、一体自分が何を信じていたのかわからなくなることがある。そうなったときに、私たちは誰かの「正義」に流される。教室の中でも同じだ。飛ぶ教室……「移動していく教室」の中で、正しいことを正しいと言える人間はいつも何人いるだろう？ 少し考えればわかるはずなのに、知識や経験、苦労や事情、生きていく中で重なってくるそんな諸々が邪魔をする。大きくなって、賢くなったはずなのに、本当のことがわからない。

私は、もう子どもではない。けれど、自分が大人になったとは思わない。まだまだ不器用で、うまく生きられない。でもこれからこの不器用さが消えてしまっているのだろうか？ そんな不安があった。これを忘れたら、もっとたくさんの大切なことを忘れてしまうような気がした。子どものころの気持ちを忘れないまま大人になることは、とてもとても難しい。

だけれど、違うのかもしれない。

ここで大人が出てくる。「正義さん」と呼ばれ慕われているある教師が、規則を破った彼らのことを叱るシーンがあった。

驚いたのは、とがめたあとに、その教師がこう言ったことだ。「君たちが私に事情を相談できなかったのなら、私も君たちの規則違反に一枚かんでいる」……正義とは何だろう。誰かの正義を認めること、そして、その正義を守ることなんじゃないかとそのとき思った。

本当に必要なのは、「正義」だ。

避けられないのなら、私はきちんと大人になりたい。正義と勇気を持ち合わせた「子ども」のままの大人になりたい。いつかの自分が相談してきたら、その正義を認められる「正義」を持ちたい。この本を読んだすべての子どもが、そう思って、きちんと大人になればいい。願わくば、これから生まれるすべての子どもが、自由で、たくましい、まっすぐな人間になれるように。もう読んでしまった私は、なんとしてもそれに一役買わなくてはいけない。

そしてそれは、出来るはずなのだ。かつて確かに「子ども」であった私たちなら。

(「飛ぶ教室／エーリヒ・ケストナー著」 岩波書店 2006年)

『流れ星のように』

特別賞 都市システム工学科4年 石橋 春佳

空を見上げるのは、祈りだ。永遠を生きることが叶わないからこそ愛おしい生を生きる人たちが捧げる、歩き出すための祈りだ。人は繰り返し空を見上げ、祈り続ける一。

人が空や星を見上げるとき、何か特別な思いがあるように感じる。一瞬で消える流れ星に願いを掛けたり、空を見て亡くなった人を思い浮かべたり、決して届くことのない星を目標としたり、様々な思いがあるはずだ。そして、星について考えてみたらふと一つの疑問が出てきた。

なぜ人はよく、亡くなった人のことを「星になった。」と言うのだろうか。単純に生と死との遙かな距離を星と表しているだけだろうか。もちろん、それも一つの解釈であるはずだ。しかし他に星と亡くなった人には永遠に同じ姿という決定的な共通点がある。今地球に届いた光でさえ星にとったら何万年、何億年前の光となる。これからも星は人間の生涯とは比べものにならないほど長い間、同じ光を放ち続けるだろう。同じように、亡くなった人も決して歳を取らずに生きていた頃の姿のまま人々の記憶に残り続ける。そう考えると、死者を星に例える意味が分かる。

登場人物の一人である奈緒子は十九歳の時、事故で同級生の恋人、加地を失った。奈緒子は一年半の時を経て、二十一歳になったが一向に加地との思い出を離そうとしない。そんな彼女に、同級生でかつ加地の友達だった巧が手を差し伸べ、やがて二人は交際を始める。しかし、互いに愛し合ってはいても、二人は加地を意識せずにはいられなかった。いわゆる死者が一角をなす三角関係の恋愛物語だったのだが、読み終えた後になぜかさわやかで優しい気持ちになれた。それは巧の考え方に特徴があったからだと思う。

「加地、奈緒子は貰っておくよ。おまえごと、貰うことにする。」

巧が空を見上げて放ったこの言葉が印象的だった。奈緒子にとって加地の思い出は美化されていてかつ神出鬼没、巧の立場からすると当然いい相手ではない。だが巧は加地を恋敵だとは考えておらず、むしろ加地を間に挟んで一直線になり、三人で生きていこうとしていた。奈緒子が加地の手を離せないのなら、俺が加地の手を繋ぐ、これからもそうして生きていく、と。それはとても難しいことではないか、本当に巧の本音なのかな、と私は思った。しかし、この物語は奈緒子と巧の視点から書かれていて、会話よりもそれぞれの心情が多く描かれている。だから、巧の考えに嘘はない、本気でそう考えているという事が強く伝わってきた。

さらに、この三人の外にも物語がある。奈緒子の両親が意見の食い違いで別居していること、妹の彼氏のこと、巧の先輩の話、高校時代のサッカー部の話…。これらの話には時間的な一致がない。現在のアングルで話が進んでいても、突然過去に戻ったりもする。そんな外側の物語からこう感じた。

時は流れている、と。

奈緒子も終盤に向けてしだいに前向きになっていく。この本は恋愛を主な題材にしているのではなく、様々な人が「歩き出す瞬間」を描いているように思う。巧が高校時代に強豪校相手にシュートを決めようとする瞬間、奈緒子の父が自分の夢の為に会社を辞めて、それを母に理解してもらおうとした時、巧の先輩がボクシングのプロテストを受ける時。そして主題の、奈緒子が加地の事を過去として、これからの未来を見る瞬間一。

亡くなった人は星に例えられる。永久に人の心に残る。では、過去も星のように永遠に保存しても幸せだろうか。愉快的気持ちになれることもあるが、時に自分の心を縛り付けてしまうこともあるだろう。かといって、完全に忘れるのも無理な話だ。できれば悲しい思い出ではなく愛おしかった日々として思い出せればいいなと、ラストシーンの奈緒子からそう感じた。奈緒子は巧や自分の家族の影響を受け、過去に囚われずに巧を信じ、まっすぐ未来を見た。



・・・読書感想文コンクール・・・

私はこれまで家族、友達、先生、その他にもたくさんの人達に支えられて生きてきた。考え込んで悩んでいた時に、私の事を思って悲しんでくれる人がいると知り、自分だけの人生ではないと感じた。私には心強い仲間がいる、と思えて救われたことが何度もあった。今度は支えてくれた人への恩返し、またこれから出会う人の支えとなりたい。そして、心が揺らいでいる人がいれば、後押しできたらいいと思う。

いつかまた奈緒子は加地と過ごした日々を思い出すだろう。一瞬で消えてしまうが、人に希望を与える流れ星のように。

(「流れ星が消えないうちに／橋本紡著」 新潮文庫刊 2008年)

平成24年度『読書感想文コンクール』表彰式



校長先生を囲んで記念撮影

平成25年2月6日、校長室において平成24年度読書感想文コンクール表彰式が行われました。今回の読書感想文コンクールでは50名の応募者の中から下記の5名が入賞し、京兼校長より賞状並びに副賞が授与されました。

最優秀賞	都市システム工学科	3年	細野 時由
優秀賞	電気情報工学科	3年	川上 大貴
優良賞	機械工学科	3年	林 智宏
特別賞	建築学科	2年	白神 萌江
特別賞	都市システム工学科	4年	石橋 春佳



平成24年度学生用推薦図書・雑誌

推薦図書コーナーに開架しています。(以下、抜粋)

誌名	請求記号	登録番号
機械工学科推薦		
世界でもっとも美しい10の科学実験	402.8.R	103064
もうひとつの「世界でもっとも美しい10の科学実験」	402.0.J	103065
世界でもっとも美しい10の物理方程式	420.2.R	103066
絵とき「破壊工学」基礎のきそ	501.32.T	103076
Make: Technology on Your Time Vol.1～11 「日経ものづくり」	505.0.0-* 雑誌	-
電気情報工学科推薦		
PIC マイコン・スタートアップ	548.2.Y	103085
エネルギー工学	543.0.Y	103060
詳解電気回路・過渡現象演習	541.1.Y	103062
続 電気回路の基礎と演習—三相交流・回路網・過渡現象編 「OHM」	541.1.Y 雑誌	103063
「トランジスタ技術」	雑誌	
都市システム工学科推薦		
津波から生き残る—その時までには知ってほしいこと—	369.31.D	103021
家族を守る斜面の知識—あなたの家は大丈夫?—	511.34.D	102994
土木施工なんでも相談室[基礎工・地盤改良工編]	513.0.D	103014
わかりやすい土木の実務	510.0.H	102998
国土と日本人	601.1.O	102992
国土学再考「公」と新・日本人論	601.1.O	103083
建築学科推薦		
力学・素材・構造デザイン	524.0.T	103175
新しい建築のみかた	524.0.S	103176
集合住宅をユニットから考える	527.8.W	103187
建築とは何か	520.0.F	103192
建築には数学がいっぱい!?	520.4.T	103195
建築学生のハローワーク	520.9.I	103213
一般科目推薦		
新基礎数学	410.0.D	103145
日の丸ロケット	538.9.M	103108
工業英検ハンドブック	507.4.N	103145
日本政治史 — 外交と権力	312.1.K	103126
寅さんとイエス 「CNN English Express」	191.2.Y 雑誌	103174

全133冊、雑誌7種

詳しくは、図書館HP(<http://www.akashi.ac.jp/lib/siryousuisen12.htm>)をご覧ください。

利用ランキング 2011.10.1 - 2012.9.30

—図書—

- ① 47回 「詳解物理学演習 上」
- ② 39回 「土質試験の方法と解説」
- ② 39回 「エース建設構造材料」
- ④ 31回 「詳解物理学演習 下」
- ⑤ 28回 「新 TOEIC TEST 英文法出るとこだけ！」
- ⑥ 25回 「新 TOEIC TEST 文法・語彙出るとこだけ!問題集」
- ⑦ 23回 「微分積分・線形代数・応用数学・確率」
- ⑧ 19回 「有機化学の基礎」
- ⑧ 19回 「ベクトル・行列・行列式徹底演習」
- ⑧ 19回 「新 TOEIC テスト1週間でやりとげるリスニング」
- ⑩ 17回 「TOEIC テスト新公式問題集<Vol.3>」
- ⑩ 17回 「TOEIC TEST リーディングベーシックマスター」

—DVD—

- ① 9回 『GANTZ』
- ① 9回 『阪急電車』
- ① 9回 『パイレーツ・オブ・カリビアン』
- ④ 7回 『人志松本のすべらない話 ザ・ゴールデン』
- ④ 7回 『白夜行』
- ④ 7回 『塔の上のラプンツェル』
- ④ 7回 『トランスフォーマー・ダークサイド・ムーン』
- ④ 7回 『さや侍』

—雑誌—

- ① 302回 「新建築」
- ② 40回 「ディテール」
- ③ 29回 「住宅建築」
- ④ 28回 「A+U」
- ⑤ 18回 「大学への数学」
- ⑥ 14回 「Tennis classic break」

図書館利用状況 (平成19年度から平成23年度)

項目 / 年度			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
年 間	入館者数	時間内	39,449	35,768	36,114	38,734	31,755
		時間外	8,681	8,955	8,318	7,132	6,714
		計	48,130	44,723	44,432	45,866	38,469
	AVルーム	計	3,720	2,839	2,042	2,358	1,896
	貸出者数	計	3,557	3,382	4,185	4,103	3,649
	貸出冊数	計	3,557	6,683	7,754	7,666	7,014
	開館日数	年 間	295	291	283	292	290
一日平均	入館者数(時間内)		160	147	152	162	110
	入館者数(時間外)		36	38	36	30	23
	A V ルーム		13	10	7	8	7
	貸出者数		12	12	15	14	13
	貸出冊数		23	23	27	26	24

【開館時間】 時間内：平日 8:30～17:00 時間外：平日 17:00～20:00 土曜日 10:00～16:30

図書館利用案内

開館時間	
月～金曜日	8:30 - 20:00
土曜日	10:00 - 16:30
春・夏休み期間中	8:30 - 17:00
休館日	
日曜日・祝日 春・夏休み期間中の土曜日 年末・年始 12/21 - 1/5	

	貸出冊数	貸出期間
通常	5冊	2週間
卒研	3冊	2ヶ月

卒研貸出は通常とは別に貸出ができます。
対象者(学科4年生以上、専攻科生)

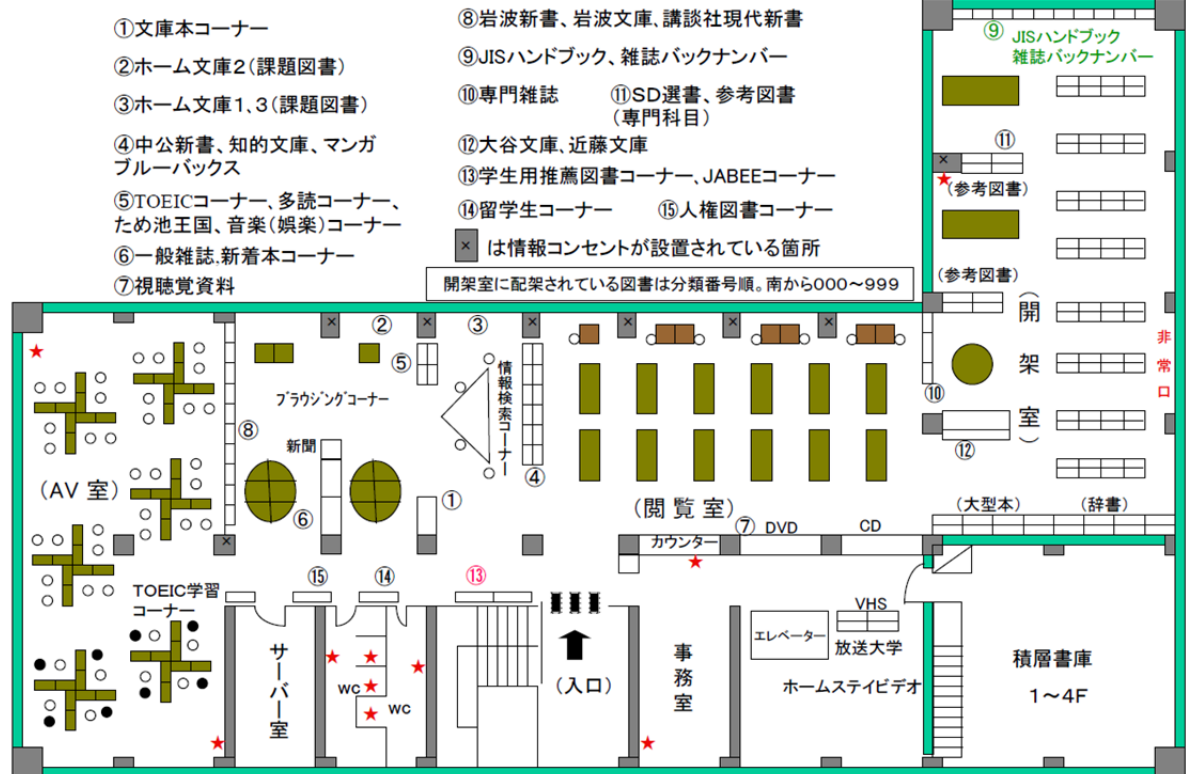
※試験期間前・期間中の日曜(祝日)については、
試行的に開館を行っています。ぜひご利用下さい。

学科推薦図書・JABEE関連資料・留学生向図書・視聴覚資料・参考書など
各コーナーに別置しています。

図書館内配置図

★非常ベル

(南)



【編集後記】

図書館報第48号をお届けします。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございます。本号の各記事が読者や図書館の利用に役立っていただけると願っています。

明石工業高等専門学校図書館報 第48 2013年2月発行

編集・発行 明石工業高等専門学校図書館 〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3 (078)946-6051